様式３

学校番号

91

令和　6　年度　学校評価書　（ 実施段階 ）

福岡県立　鞍手　高等学校

スクール・ミッション （本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像）	校訓「質実剛健　自学自習」、校是「たくましき前進者たれ」のもと、「気品溢れる鞍高生たれ」をスローガンとし、 3つの『ガク』力の育成を教育方針・重点目標とする。	
スクール・ポリシー （三つの方針）	グラデュエーション・ポリシー （育成を目指す資質・能力に 関する方針）	○大学進学に必要な知識・技能に加え、この後も学び続けるために必要な「学びを自走させる力」の習得 ○数多くの情報を収集するとともに必要な情報をもとに適切に分析し、課題の本質を見極め判断する力と解決に立ち向かう体力・実践力の育成 ○地域はもとより国際社会で貢献する高い志と多様な人々と協働して新しい世紀を創るリーダーシップの涵養
	カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成及び実施に 関する方針）	○理数科、人間文科コース、普通科の各学科・コースにおいて、それぞれの特色のある教育課程の編成 ○SSH、SGH事業で培った探究的な学びや英語イマージョン教育による教科横断的な学びを活かした、すべての教科における主体的・対話的で深い学びの実践 ○本校の特色ある教育課程の実施と個別最適な学びや学びの自走を実現するためのICTの積極的な活用
	アドミッション・ポリシー （入学者の受け入れに 関する方針）	○進学に対する強い意思を持つとともに、知識・技能の習得に向けて自ら学び、探究的な学びを通して思考力・判断力・表現力を身につけようと希望する生徒 ○様々なことに挑戦する意欲を持ち、何事にも主体的に取り組もうとする生徒 ○地域や国際社会への貢献を目標に、多くの人々と協働して新しい世紀を創造しようとする生徒

学校運営計画（4月）

学校運営方針			評価 （総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
創立百周年以降、次の百年に向けた新たな学校ブランドづくりをスタートさせ、文武両道の「たくましき前進者」を育成するという不易の教育理念を堅持しつつ、SSH及びSGH事業における先進的な研究活動等を通して、高大接続改革や学習指導要領の改訂を見据えた指導法の改善に学校全体で取り組んでいる。今後はSGH及び第Ⅲ期を迎えたSSHの研究成果を踏まえて、課題研究を核とする探究活動の深化をはかり、また、生徒一人一人の習熟に応じた学びを促すためにオンライン授業の効果的活用を進め、生徒の第一希望進路実現に繋げるとともに、本校の魅力を小・中学生へ浸透させることで入学志願者の増加を図ることが喫緊の課題である。	【学力】の育成（思考力・判断力・知的好奇心　等）	・将来の社会人として必要な知識・技能の習得 ・自らが学びに向かおうとする力	A
	【岳力】の育成（忍耐力・向上心　等）	・困難に立ち向かい、辛抱強く歩を進める力 ・安きに流れず、高みを目指そうとする意欲	
	【楽力】の育成（表現力・想像力・行動力　等）	・学校は、「楽しい場所」であるべきという姿勢 ・「楽しさ」は与えられるものではなく、自らで作るもの。 ・「学び」の中に「楽しみ」を見つけ出す力を育成する。	

様式３

自己評価								学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（３月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
学務課（学習指導・学習支援）	日々の授業の円滑な実施と授業力の向上	時間割変更等を担当者の期間を決めて輪番で行うことで、担当者の負担の軽減を図る。若年者教員に教務部の仕事について理解を深めてもらい、次世代を担う人材を育成する。Teamsの効果的利用を促進する。	自分の意見を主張することにためらいを感じている生徒が多い。	A	A	A	主体的・対話的で深い学びを一層推進したい。意見を主張するための根拠となる知識を身に付けさせたい。	A	中学校の学び直しも必要だが、１年次の授業の進度が他の進学校に比べ遅いと感じている生徒がいる。更に上位層の生徒を伸ばす方法が必要。
	適切な観点別評価の実施	新学習指導要領の理念に基づく新しい評価の実践を行い、教務規定を含め本校の実態に合わせて改善していく（SSHの評価法含む）。	学校の勉強が楽しいと感じる時が少しあると回答した生徒が半数を超えている。次年度は多くあると回答する生徒が半数を超えるようにしたい。	B	B		観点別評価について、再考したい。部活動と学校行事と学業の有機的な連携を図りたい。		
	学力差に対応するための方策	スタディサプリ、スタディサプリイングリッシュ等を活用し、学びの自走化を進める。	勉強が分かるように努力をしていないわけではないが、とても努力していると回答した生徒は少ない	B	B		進路指導部と連携し、個に応じた学習が進められるような体制づくりの構築		
	カリキュラム、学科・コースの検討	学校の現状と課題を踏まえ、それらを改善しうるカリキュラムの提案とともに、新学習指導要領と今後の教育情勢を反映できるような学科・コースについて具体的に提案する。		A	A		県外の先進校訪問や県内高校のカリキュラムを参考に、新学科の検討を一層進めていきたい。		
情報課（ICT活用支援・促進）	統合型校務支援システムの円滑運用	新課程の評価に関する職員間の共通理解を深めるとともに、校務支援システムの円滑な運用方法について検討を進める。		A	A	A	校務支援担当者の負担軽減に努めたい。	A	学習を効果的に行うためのネットの利用方法、使いこなし方の更なる工夫。
	電子黒板・タブレット等の効果的な利用方法の模索と情報共有	職員が活用方法に関する情報交換や、教科・科目・担当者にあったICT活用の研修を行う。		A	A		タブレットの活用は進んだものの、それに伴う問題（利用マナー等）も生じてきているので、それに対応したい。		
	校内のPC環境の整備と効果的利用の促進	巡回訪問支援員と協力して、校務支援システムの適切な活用方法を職員に周知する。		A	A				
広報課（学校活性化）	組織再編に伴う業務の精選、効率化	広報業務を精査し、より効率的、効果的な広報活動を目指す。		A	A	A	従来よりも広報活動を精選したことにより、各回の広報活動がより充実したものとなり、参加者から好評を得ることができた。一層の工夫改善を重ね、魅力発信に努める。	A	特記なし
	生徒の顔が見える広報活動のさらなる充実	生徒会生徒による学校紹介や卒業生の活用。	オープンスクール参加の中学生へのアンケート 学校説明が解りやすかった98% 体験授業に興味を持てた93%	A	A				
生徒指導課	教師のカウンセリングマインドに基づいて、生徒の自己肯定感や自尊感情を高める。	教師が生徒一人一人に目を向け、生徒に自己肯定感を持たせ、自主・自律の心を高めることができる生徒指導を推進する。	学校生活アンケート （3 得意なことや自慢できることがあるか。） 【結果】 自信を持っていない生徒が一定数いることがわかった。	B	B	B	学校を休みがちになったり、友人関係に影響が出た生徒も各学年数名いた。そういった生徒を一人でも少なくするため、次年度もK-Noteや面談をより効果的に行う必要があると考える。	B	部活動での経験が社会で活かせるよう指導を心がける。
		k-note、アンケート調査や面談を活用し生徒理解に努める。学校でのあらゆる活動を通して生徒との信頼関係を構築し、たくましい生徒の育成に努める。		B					
	基本的生活習慣（挨拶、時間厳守、整理整頓）の確立を図り、お互いを尊重し、思いやりの心を育てる。	生徒会や分団リーダーによるマナーアップ運動を展開する。また、定期的に登下校指導等を行い日常的な挨拶の励行を行う。	学校生活アンケート （22 クラスに困っている人を助けてくれる人はいますか。） 【結果】 どのクラスにも、困った時に助けてくれる生徒が一定数いることがわかった。	A	B		生徒会や分団リーダーは、特に学校行事において学校の活性化に貢献してくれた。次年度もさらに活躍の場を与えるとともに、教員もそういったリーダーたちをサポートしていきたい。 教室の環境整備（授業中も含む）やマナー指導においては、教員間の意識の差も見られ、生徒が戸惑う様子もあった。次年度は教員間の共通理解をさらに促進する必要がある。		
		全職員による生活指導、マナー指導（情報モラルの育成を含む）を行い、お互いを思いやる生徒を育成する。		B					
	上級生のリーダーシップを生かし、生きる力を育む生徒指導を展開する。	部活動に積極的に参加させ、充実した活動を支援する。	学校生活アンケート （28 部活動） 学年アンケート （学校行事） 【結果】 部活動、学校行事ともに意欲的に取り組んでいる生徒が多い。	A	A		部活動においては、生徒が主体的に活動した結果、好成績を収めた部活動も多く、学校の活性化につながった。 生徒会においても、学校行事の運営や準備に尽力し、学校行事の成功に大きく貢献した。		
		生徒主体の分団制による生徒会行事を通して共感的人間関係を育成する。		A					

様式３

保健課	心身の健康を管理し、自己を大切にする生徒を育成する。	教育相談委員会や学校医と連携して教育相談体制の充実を図る。	学校生活アンケート （7 自分自身のことが好きですか。） 【結果】 自己肯定感が高くない生徒が一定数いることがわかった。	A	A	A	年々、増加傾向にある心の悩みを抱える生徒に対し、SC、SSWと協力し、円滑で迅速な対応を図ることができた。衛生委員会における産業医の助言指導を生かした。 本年度はマイコプラズマ肺炎、インフルエンザ、新型コロナウィルス感染症が拡大し、学級閉鎖に至ったクラスが出た。感染症発生時点において教員間の迅速な連携によって予防対策を早期に強化すべきであった。	A	特記なし
		保健講話等による健康教育の充実や感染症等の予防と迅速な対応を行う。		B					
	委員会活動を活性化し、美しい学校をつくる。	保健委員会、美化委員会を定期的に開き、生徒間でお互いの健康状況や感染症予防、校内美化を意識させる。	学校生活アンケート （18 みんなで協力し合っていると思いますか。） 【結果】 概ねお互いに協力する姿勢があることがわかった。	A	B		学校医による定期健診では保健委員を中心に準備、片付けを行い、保健委員の意識向上ともに、検診を円滑に進めることができた。美化委員会では美化コンクールの実施、掃除用具類の点検・補充など充実を図ることができた。 クラス単位の感染症予防や清掃活動において徹底されていない部分が見受けられた。生徒とともに全職員への意識づけや協力体制の向上が急務である。		
		全生徒・職員による毎日の清掃活動による環境美化の充実を図る。また、清掃道具等の備品充実を行う。		B					
人権教育課	学校の教育活動全体を通して、様々な人権問題について理解を深め、実生活に活かせるように指導の充実を図る。	人権教育授業を充実させ、生徒に人権感覚を身につけることができるよう、各学年や各クラスでの指導の充実を図る。	学校生活アンケート （21 クラスに仲間外れにされている人はいますか。） 【結果】 10名が「はい」と回答しており、周囲のクラスメイトの状況を気にかけることができる生徒が増えた。	A	A	A	人権教育授業は各学年でよく工夫され、人権問題の理解を深めることができた。生徒間の交流は全校統一テーマの時間に、他学年の生徒が同じグループで話し合いをすることや、文化祭や運動会などの学校行事を通してコニュニケーション能力を養成することができた。	A	特記なし
		生徒間の交流や学級活動を通して、より良い人間関係を築くためのコミュニケーション能力を養成する。		A	A				
	アンケートや職員研修を充実させ、生徒の実態を把握する。いじめ見逃しゼロ。	いじめアンケート等を毎月実施し、問題に迅速に対応できるよう努める。	学校生活アンケート （27 学校に行きたくないと思うことがありますか。） 【結果】 「よくある」と回答した生徒が58人と多いことがわかった。	A	B		毎月のいじめアンケートで気になる回答があった場合には、各学年で迅速に対応ができている。校内職員研修会では職員間での十分な情報共有はできているが、研修会の回数を増やしたり内容を深めたりする努力が今後必要である。アンケートの結果からもより一層、生徒との面接を積極的にしていかなければならない。		
		校内職員研修会を実施し、職員間で情報を共有する場を設け、指導の充実を図る。		B					
進路指導 （進路指導課）	地域の拠点校として、難関大学10名を含む国公立大学100名以上の合格を目指す。	学力層に応じた講座を開講するなど、個別最適な学びを推進する。		B	B	B	ハイレベル講座や「自学の日」を活用して、学力層に応じた指導を推進する必要がある。また、それらに参加している生徒の成績の変化等を分析する。	B	PTAと学校が連携した取組の工夫。
		模試の結果を分析し、生徒へのフィードバックを行うとともに事後指導を確実に行う。		A					
	生徒一人ひとりの第一希望進路の実現を目指し、的確な進路指導を展開する。	ハイレベル講座や自学の日の実施を通して、学習意欲の高揚を図る。	「意欲的に取り組むことができた。」と答えた生徒がほとんどであった。「①物理の講座を続けてほしい。②全統模試の数学を解きたい。」等の要望があった。	B	B	B	「自学の日」アンケートでは、参加した生徒のほとんどが意欲的に取り組めたと回答している。また、講座に対する積極的な要望もあるため、生徒のニーズに合った講座を実施するなど、学習意欲を高める工夫をしていきたい。		
		進路についての考えが深められるよう、学級担任を中心とした面談を促す。		B					

様式３

職員研修 （研修・図書課）	職員に必要な情報を提供し、問題意識を共有する場を設け、新たな仕組み作りや授業改善につなげる。	スタディサプリの効果的な活用を促す。		B	B	B	英検の指導や1年生の朝の取り組みでスタディサプリの活用が見られるが、次年度は現状の分析が必要だ。職員研修で課題は共有できたが、次年度は職員に必要な研修が実施できるよう、各分掌と連携していきたい。	B	特記なし
		職員研修が、課題の共有と解決につながる場となるように設定する。		B					
		ベテラン教員のノウハウを若手教員につなげる。		B					
読書推進・ 芸術鑑賞 （研修・図書課）	読書や芸術鑑賞を通して生徒の感性を磨き、教養と見識を備えた生徒を育成する。	「朝読書」を推進し、生徒の読書量を増やす。	朝読書の意義を感じている生徒が大半だが、一部自習をしたいという生徒もいた。芸術鑑賞会は今年も好評であった。	B	B		多くの生徒が朝読書の意義を感じているが、朝の時間の使い方については、学年ごとに生徒の実態に合わせて進めていく必要がある。今年度の芸術鑑賞会も生徒が楽しめるものを実施できた。今後も続けていきたい。		
		「図書館だより」や「読書の種」を定期的に発行し、図書館利用を促す。		B					
		有意義な芸術鑑賞会を計画・実施する。		A					
探究活動 （特色化推進課）	「STEAM探究プログラム」の研究・開発を通した特色ある教育活動を推進する。	「環境・エネルギー」をテーマとした探究活動に取り組むことで、「STEAM探究プログラム」について研究する。	各取組において育成を目指す能力について，向上したと答えた生徒，教員がおおむね半数を超えた。	B	B	B	SSH中間評価においても、課題設定力、データ分析力、コミュニケーション力が向上していることについては一定の評価をいただいている。その要因について分析し、記録を残すことが課題である。	A	特記なし
		課題研究においては、学年毎の目標達成に向けた取組を推進する。		A					
		外部との連携によるコミュニケーション力の育成とSSH事業の成果の普及に努める。		B					
評価法の改善 （特色化推進課）	「指導と評価の一体化」の取組により、生徒の資質・能力を育成する。	学びの開発ルーブリックによる生徒の自己評価を実施する。	主体的に学習に向かう態度の成績と生徒の自己評価について，正の相関を持つ項目の数が増加した。	B	B		自己評価だけでなく、生徒同士の相互評価活動を通した授業改善の取組が行われ、生徒の学習意欲の高まりや、省察性の高まりを見取ることができた。		
		さまざまな評価を分析し、評価法と指導の改善及び生徒自身の学習の改善につなげる。		B					
特色ある科・ コースの検討 （特色化推進課）	科・コース再編の動きを注視しつつ、特色ある科・コースの在り方について検討する。	理数科や人間文科コースの研修については、魅力的で持続可能なものを検討する。	校外研修においては，向上を感じた生徒・教員の割合が半数を超える項目が複数あった。	B	B		理数科については、本年度初の取組として、東京・つくば研修の事後研修として、研修に参加した2年生が1年生に向けて研修内容の報告を行った。人間文科コースについては、海外研修の訪問先について検討することができた。魅力の発信が大きな課題である。		
		習熟度別学習及びコース独自授業等を活用し、コミュニケーション力や課題設定力の育成を図る。		B					
		パンフレットやホームページを利用して、科・コースの魅力を発信する。		C					

様式３

1学年	基本的生活習慣の確立	健康管理への意識を高め、安易に欠席しない姿勢をもたせる。	「学校生活アンケート」92.6%が「あなたのクラスはみんなで協力し合っている」と答えた。	A	A	A	互いを尊重しあい、共に向上しようとする意識を学年全体で高めることができた。アンケートでは、9割以上の生徒が「クラス内で協力し合っている」と答えている。	A	特記なし
		場面に応じた適切な言葉遣いや日常の挨拶を励行する。		A					
		規範意識を高め、社会的マナーを遵守する態度を育成する。		A					
	盤石な基礎学力の養成	個人面談を行うことにより、具体的な目標を設定させ、進路意識を高揚させる。	「学校生活アンケート」81.96%が「もっと勉強が分かるようになろうと努力している」と答えた。	A	A		「もっと勉強がわかるようになろうと、努力していますか」とのアンケートに、8割以上の生徒が「努力している」と答えている。面談、読書、または小テスト等、学年での取組みを通して、互いに切磋琢磨し勉学に励む雰囲気づくりに努めた。		
		自己の進路希望・適性により、第2学年での類系選択を決定させるため、生徒・保護者に適切な情報を提供する。		A					
		模試等の結果の分析を適正に行い、生徒個々に対応した進路指導を行う。特に、成績上位層を育む手だてに早期に取り組む。		B					
	進路目標の設定	自ら学ぼうとする意欲・態度を育成し、進路実現に向けての基礎学力を育成する。	「学校生活アンケート」66%が「学校の勉強が楽しいと感じる時がある 」と答えた。	B	A		毎日の授業や行事、さらに「学年通信」の発行を通して、進路実現への意識を高揚した。アンケートによると過半数が「学校の勉強が楽しい」と感じているが、さらなる探究心や自己への厳しさも求めていきたい。		
		授業に対する心構えと学習方法の習得を年度初めに徹底指導する。		A					
		K-Note（学修記録手帳）を有効利用し、家庭学習の充実を図る。		A					
2学年	基礎学力の定着と応用力の育成を図る。	授業を大切にし、スタサプの課題配信等を効果的に用いて、学びの自走化に努める。	2学年アンケート課題として出されないと家庭で学習する習慣がない生徒が多い結果となった。	A	A	A	学力向上のため、週末課題や小テスト、学年の取組など、教科や学年で取り組んだ。8割の生徒が課題が必要だと回答しており、学習の自走化に課題が見られる結果となった。教科での粘り強い指導と学年でのモチベーション作りに力を注ぎたい。	A	特記なし
		毎朝、朝読や英単コンクールをはじめ速読や小テストウィークを企画し、学力の底上げを図る。		A					
		考査や模試等において、計画・実行・分析・改善のサイクルを徹底し、学力向上を促す。		A					
	学習や体験を通して、希望進路を確定する。	OC・夢ナビLIVEへの参加を通し、広く、深く進路情報を収集させ、進路研究を促す。	2学年アンケート進路実現のため、学習の必要性は感じているが、実生活での行動はできていない生徒が多い。	B	A		アンケートより、進路実現に向けた努力を行わなければならないと考えている生徒は9割以上いるが、生徒自身で満足できる程の行動や結果には繋がっていない現状が分かった。進路学習を通し、目標の明確化を図る。		
		課題研究のための共同研究や、リサーチデイでの学びを経験させ、キャリア形成につなげる。		A					
		進路相談及び3年次の類型選択に向けた個人面談をこまめに行う。		A					
	「考えて行動する」ことで、自己指導能力を磨く。	挨拶から始まる会話や対話を重視し、生徒理解に努める。	感想文「友人との仲が深まった」や「自分を見つめ直す良い機会になった」等の充実した感想が書かれていた。	A	B		修学旅行、海外研修を通して、仲間の大切さや支えてくれる人への感謝の気持ちを感じている感想文が多かった。日々の学校生活においても、この学びを活かしていきたい。		
		時間厳守、整理整頓を徹底し、校則を遵守することで自己指導能力を磨く。		B					
		美化意識を持たせ、教室環境の整備や学校美化活動の充実を図る。		B					
3学年	知識の定着と応用力の獲得に向けた、主体的に学ぶ生徒の育成	知識の定着及び応用力の獲得のため、スタサプや赤本等過去問の活用。	学年振り返りアンケート86.7%の生徒がスタサプ等の活用ができたと返答があり、学力向上に向けて行動できた生徒が多い。	A	A	A	2年次3学期より自習室の開放からコモ勉につなげ、赤本やスタサプなど学びの自走化に向けて取り組んだ。生徒からも進路実現に向けて積極的に活用できたと回答があった。	A	特記なし
		模試、考査の復習を確実に行い、自己分析の徹底を図る。		A					
		自習室の開放と学び合いの場の設定（コモ勉の実施等）		A					
	学校生活の徹底と学校行事に主体的に取り組み社会性を高める	健康管理と休まないことの意義を説き、自己管理の徹底をさせる。	学年振り返りアンケート98.5%の生徒が学校行事等目標に向けて学校を休まず役割を果たそうとする意識があると回答した。	A	A		学年として出席について全体指導を都度行った。アンケートからも学校に係る意識を持った回答が見られた。また、学校行事ではリーダーとして主体性を持って取り組み発言や行動からも成長が見られた。		
		日常的な面談等行う中で、生徒の悩みや困りなどを把握し、安心して登校できる環境づくりを行う。		A					
		学校行事における運営リーダーの指導を学年全体で行う。		A					
	進路目標の達成（難関校10名を含む国公立100名以上の合格）	様々な入試形態への情報提示や模擬課題、面接など個別指導の充実を図る。	学年振り返りアンケート進学率、進路先のデータ結果より95.3%の生徒が『できた』など回答している。	A	A		進路目標の達成とはいかなかったが、各教科や入試に向けた個別指導の充実は生徒からの評価を得ている。入試形態も千差万別の中で小論や志願理由など時間のかかる指導については下位学年よりしっかりと取り組む必要が今後の課題と考える。		
		広い進路視野を持たせ消極的な進路決定をさせないため、個々に応じた進路実現のための面談を行う。		B					
		積極的な課外の参加と、個別指導や講座による学力層に応じた指導の継続。授業の充実。		A					

様式３

庶務課	他分掌・学年との協力による諸行事の円滑化	諸行事の効率化を図り、厳粛な中にもあたたかみのある式典を目指す。		A	A	A	儀式的行事の円滑化について、他分掌との連携を図ることができた。今後は、諸行事を新型コロナウイルス感染症の前の状態に新たな形式で戻していくことを検討していきたい。	A	特記なし
		各分掌との連携を図り、儀式的行事における準備・運営の円滑化を行う。		B					
	PTA・同窓会との連携強化	PTA役員・理事との関係強化を通して、４委員会の活動の活性化を目指す。	【PTA役員・理事アンケート結果】 入学式…大変満足・満足100% 敬高祭…大変満足・満足92% 運動会…大変満足・満足100% 卒業式…大変満足・満足100% PTA総会…大変満足・満足98%	A	A		PTAアンケート結果より、学校行事に対しては、「大変満足」「満足」という結果が多数を占めた。より積極的にPTA行事をに参加したい保護者の受け皿をどう設けるかが課題である。		
		同窓会組織と積極的なコミュニケーションを図り、諸行事への協力関係を構築する。		A					
	防災教育の充実による防災意識の向上	災害の発生に備え、防災訓練の充実と職員・生徒の危機意識の涵養を目指す。		A	A		防災訓練については消防署・教職員よりおおむね好評な評価をいただいた。今後は予告なしでの防災避難訓練の実施等を詳細に検討していくことが課題である。		
		避難場所の選定を行い、備蓄品である非常食の管理を徹底する。		B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・挨拶指導等の人としての在り方、生き方教育で、立派な社会人として地元筑豊地区に貢献できる人材の育成を図る。

・成績上位層の生徒の学習意欲を更に高めるような手立て工夫。

・ICT機器を有効に活用した授業が展開されるよう更なる授業改善に取り組むとともに、スタディサプリを活用し家庭学習内容の再検討を行い、学力向上に努める。

・

・

学校関係者評価	
評価（総合）	自己評価は A：適切である B：概ね適切である C：やや適切でない D：不適切である
A	
評価項目以外のものに関する意見	
特記なし	